

ブロードバンド時代のコンテンツ産業振興

経済産業省 文化情報関連産業課長
岸本周平



ゲームやアニメ、それにTVのトレンドィ・ドラマなどの国際競争力の強さから、日本のコンテンツ産業はバラ色だと思われています。ところが、売り上げベースではみんな苦戦中。原因を探ってみると、どうもクリエイター側が儲からなくて、人材も育たず、おもしろいコンテンツが作れなくなっている様子です。業界の構造が、放送局や広告代理店に依存しすぎていることもあり、収入がどうしても流通側に厚くなっています。

たとえば、アニメのプロダクションとTV局の契約書をみてみましょう。制作費も十分もらえない。放映されるだけでも感謝しなさいよということなのでしょう。しかも、二次利用権に窓口権、全部押さえられている場合もあります。BS、CSはおろか、公衆送信権（インターネットの権利）まで。そもそも、著作権は作った人のものなのに、おかまいなしのケースもあります。このような商慣行を直

さない限り、日本のコンテンツ産業に「明日は無い」と思います。これらは、明らかに「優越的な地位を濫用した不公正な取引方法」にあたります。中小企業庁は、自らの権限で以上のような行為に対して、公正取引委員会に適切な措置を求めることができます。今後、政府は独禁法に基づいて、優越的な地位の濫用を防止することで、クリエイター側を応援していきます。

補助金を配ることだけが、産業振興ではありません。今、経産省では知的財産権の保護に真剣に取り組んでいます。日中韓のコンテンツ担当課長の定期協議を立ち上げました。その場では、海賊版対策やコンテンツ産業間の交流事業にも取り組む予定です。さらに、音楽、映像、出版などの事業者のみならず、一緒に、「海外展開促進コンソーシアム（仮称）」を立ち上げ、東アジアマーケットの海賊版対策を実施したいと考えています。

Contents

Contents

THE RECORD……2002.3 No.508

- コラム----- 2
ブロードバンド時代のコンテンツ産業振興
経済産業省 文化情報関連産業課長 岸本 周平
- 2001年度「音楽パッケージソフトウェア----- 3
実態調査」

- ニュース----- 9
不法録音物対策委員会長野県茅野市で著作権講習会／アジア知的所有権シンポジウム2002開催／当協会「M I D E M2002」で特別表彰／日韓国民交流年記念「アジアミュージックフェスティバル'02」開催／当協会新組織体制について／WIPO著作権条約発効／日本レコード普及人事異動／当協会理事交替
- GOLD ALBUM 他 認定作品----- 12
- 世界の話題・会議メモ----- 13
- 統計資料----- 14
- レコード生産実績----- 15

2001年度「音楽パッケージソフトウェア実態調査」実施

当協会では、この度、「音楽パッケージソフトウェア実態調査」を実施、「2001年度音楽パッケージソフトウェア白書」としてとりまとめました。

本報告書は、音楽パッケージメディアの需要構造を世代間比較の視点と、トレンド分析的視点によって総合的に把握することを主な目的として、当協会が毎年実施しているものです。

今回の調査結果の主なポイントは以下の通りです。

(1) 音楽ソフトの購入実態

● 拡大する中高年層マーケット

世代別では 40～55 才の中高年層のシェアが昨年の 21.8%から 26.2%と前年に引き続き伸長しました。

● シングルCDマーケット減少

シングル CD 購入経験率が 46%から 38%と減少しました。

● ベスト盤購入傾向強まる

邦楽では、ベスト盤購入経験率が全体で 40%と新作の 48%に迫る勢いです。

(2) 音楽ソフトコピーと CD-R 利用実態

● レンタルCDからのデジタルコピー増加と CD-R へのコピー増加

レンタル CD を利用したコピーが 63%と最も多く、録音先メディアは MD (54%)、カセットテープ (55%) とほぼ同数になり、また CD-R も昨年の 15%から 24%へと急激に増加しています。

● CD-R 機器の普及と音楽CDのコピーの急増

CD-R 機器の所有率が高まっており、特に男子大学生、20 代男性、30 代男性の率が高くなっています。さらにその使用用途はパソコンデータのバックアップだけではなく、音楽 CD のコピーが急増しています。レンタル店で借りた CD のコピーが昨年の 33%から 52%へ、MP3 ファイル等の音楽データのバックアップも昨年の 19%から 35%へ著しく増えています。この 1～2 年市販のパソコンにはほとんど CD-R が標準搭載されるようになり、今後は更にその影響が拡大していくものとみられます。

● 【調査設計】

サンプル設計 (人)

	計	男性	女性
中学生	134	67	67
高校生	134	67	67
大学生	134	67	67
20代	134	67	67
30代	132	66	66
40～55才	132	66	66
合計	800	400	400

(※ 20代は学生を含まず。)

調査対象者：12～55 才男女

(ただし小学生は除く)

調査エリア：東京 30 km圏

抽出方法：エリアサンプリング法

(50 地点・各地点 16 サンプル)

調査方法：質問紙による面接留置き自記入式

調査日時：2001年10月1日(月)～15日(月)

● 【掲載内容】

- ・ CD 購入枚数別世代別マーケットシェア
- ・ 性・世代別アルバム・シングル CD 購入枚数
- ・ 新品 CD アルバムジャンル別購入率
- ・ CD タイプ別購入動向
- ・ 音楽関連機器所有状況
- ・ DVD 機器・ソフトの所有状況
- ・ インターネット、音楽コンテンツ・サービス利用状況
- ・ 音楽ソフト等の録音録画状況
- ・ CD-R 機器利用状況

なお、本白書を入手ご希望の方は、当協会ホームページ (URL: <http://www.riaj.or.jp>) からダウンロードして頂くか、当協会広報部までお問い合わせください。

1. CD購入枚数別にみる世代別マーケットシェア

CD購入枚数と性・年代を切り口に、今回の調査から見られる音楽マーケットの構造をみてみます。

「CD購入枚数別にみた、性・年代別人口ボリューム」
(タテヨコ全体計100%でみた実際のマーケット人口ボリューム)

		H:ヘビー (年間12枚以上購入)	M・L: ミドル・ライト (年間11枚以下購入)	N:ノン (非購入)	推定マーケット シェア★	
*単位:%						
男	性 計	50.7	11.5	25.1	14.0	63.7
女	性 計	49.3	6.7	30.5	12.2	36.3
中学生 5.3	男 性	0.6	1.1	1.0	2.0	
	女 性	0.5	1.6	0.5	2.0	
高校生 5.5	男 性	1.2	0.9	0.6	3.3	
	女 性	0.8	1.7	0.2	2.7	
大学生 5.3	男 性	1.0	1.4	0.5	6.2	
	女 性	0.4	1.8	0.1	2.6	
20代 24.5	男 性	3.9	6.0	2.6	23.9	
	女 性	2.9	7.0	2.1	15.2	
30代 21.6	男 性	1.7	6.3	3.0	10.1	
	女 性	1.0	6.6	3.1	5.8	
40~55才 37.9	男 性	3.2	9.5	6.3	18.2	
	女 性	1.2	11.8	6.0	8.0	

*ベース:全数(n=800):購入枚数は「アルバム+シングル」合計

注:少数第2位以下を四捨五入している為、合計が100%+/-になっていますが数値に問題はありません。

★推定マーケットシェアの算出方法★

性・年代別のアルバム・シングル年間平均購入枚数(中古盤・輸入盤・インディーズ盤などを含む)をそれぞれ、<アルバム1枚=3ポイント、シングル1枚=1ポイント>と指数化した上で総計を出し、そこから各性・年代それぞれの全体に対する比率を算出しました。

やはり本年も、音楽マーケットの多くを占めるのは**20代(男女合計で39.1%)**となりました。単純な人口構成比では24.5%ですから一人あたりのCD購入量の多さがうかがえます。

これに次ぐのは**40~55才の26.2%**となります。中でも**男性層は18.2%と20代の女性を上回るマーケットシェア**を示しています。ただし**人口構成比は37.9%**なので一人あたりの購入量という点ではまだまだ開拓の余地がありそうです。

学生層は中学生から大学生まで全て合計して18.8%です。実際の人口構成比は16.1%ですから一人あたりのCDマーケットへの貢献はなかなかと判断できます。

(※東京30km圏という地域特性や・12~55才・800サンプルの調査設計である点にご留意ください)

2. 性・世代別にみるCD購入枚数(アルバム)

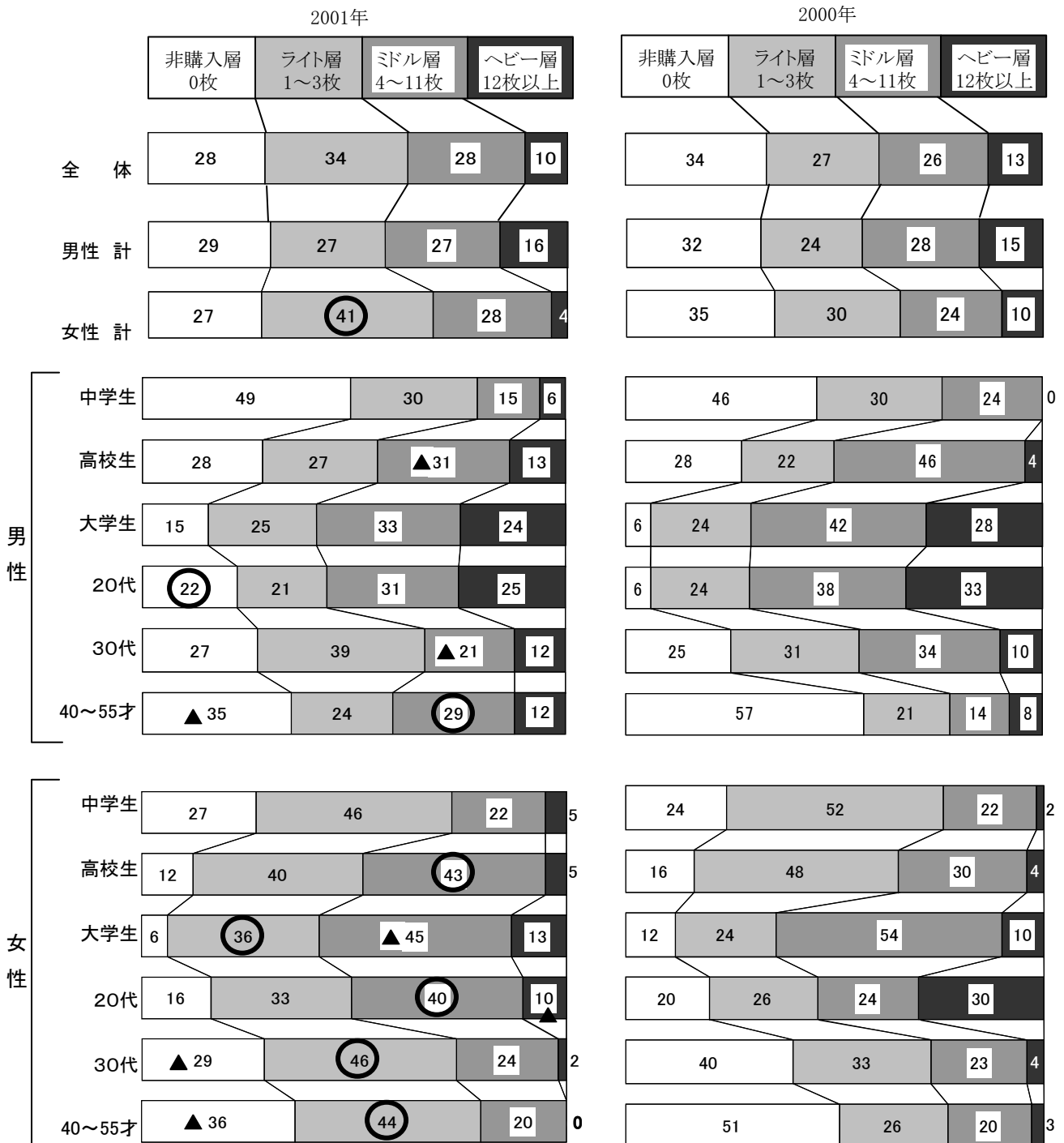
ここでは、昨年から本年へのCDアルバムの購入枚数の変化を性・年代別にみてみます。

全体的にみた場合、

- ①「ライト層」が27%→34%とやや増加傾向
- ②「非購入層」が34%→28%とやや減少傾向

といった「広く浅く」といった傾向がうかがえます。

特に「非購入層の減少」は男女とも40～55才の層で顕著な傾向です。



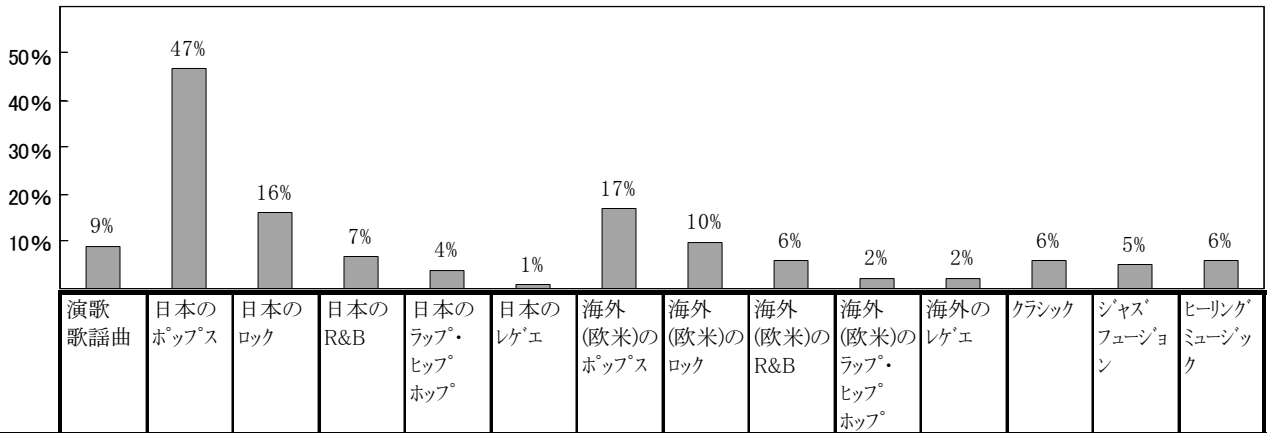
* 単位: % ベース: 全数 (n=800) ○は昨年より明らかに増加・▲は明らかに減少した数値

注: %を正数表記(小数点以下四捨五入)している為、合計が100%+-の箇所がありますが数値に問題はありません。

3. 新品CDアルバムのジャンル別購入率

アルバム(新品CD)・ジャンル別購入率(過去1年内)

ここではCDアルバムの購入率を性・年代別にみていきます。なおジャンルの選択肢については本年において大幅に見直したので、昨年との比較は割愛しています。



単位: %

		演歌 歌謡曲	日本のポップス	日本のロック	日本のR&B	日本のラップ・ヒップホップ	日本のレゲエ	海外(欧米)のポップス	海外(欧米)のロック	海外(欧米)のR&B	海外(欧米)のラップ・ヒップホップ	海外のレゲエ	クラシック	ジャズ・フュージョン	ヒーリングミュージック
男性計		8	47	19	7	5	1	17	15	7	3	3	6	8	6
女性計		11	48	13	8	2	0.1	16	5	4	1	1	6	3	5
性	中学生	6	36	15	2	3	2	3	2	3	-	2	2	-	2
	高校生	5	46	21	6	3	3	8	10	5	3	-	6	2	2
	大学生	3	54	34	18	13	6	19	22	8	8	5	9	10	8
	20代	9	51	31	13	9	3	22	27	16	8	6	3	6	10
	30代	3	58	9	6	3	-	15	12	9	3	3	3	9	-
	40~55才	12	38	14	3	3	-	18	11	2	-	2	9	9	8
性	中学生	10	54	9	8	5	-	9	3	-	2	-	3	-	-
	高校生	-	69	22	10	9	-	25	5	3	3	-	9	3	3
	大学生	3	61	12	19	18	2	27	6	15	10	2	6	-	3
	20代	6	63	18	9	3	-	27	8	12	2	3	6	3	3
	30代	12	47	12	6	-	-	12	5	2	2	-	6	2	6
	40~55才	15	33	9	6	-	-	11	5	-	-	-	6	5	8

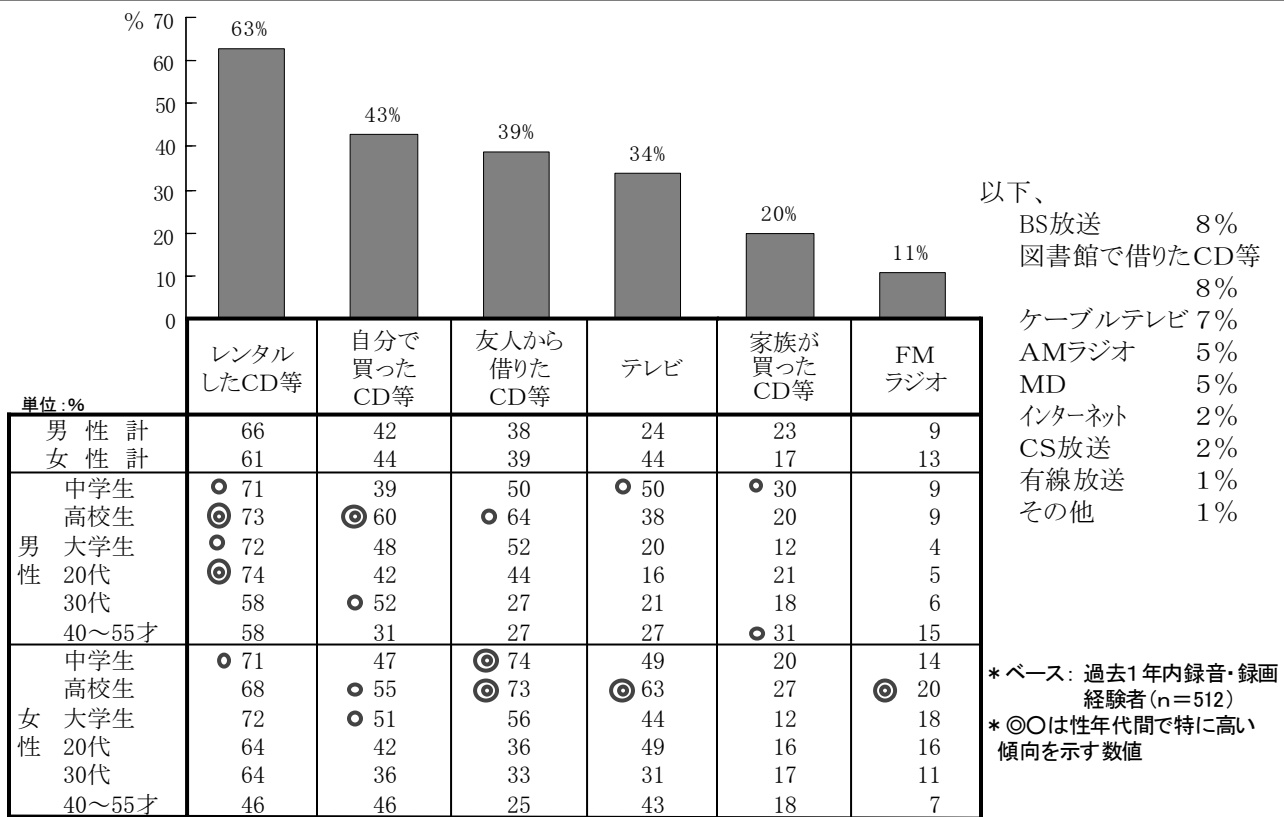
* ベース: 全数 (n=800)

まず全体では「日本のポップス」が47%と圧倒。「海外(欧米)のポップス(17%)」「日本のロック(16%)」がこれに続きます。

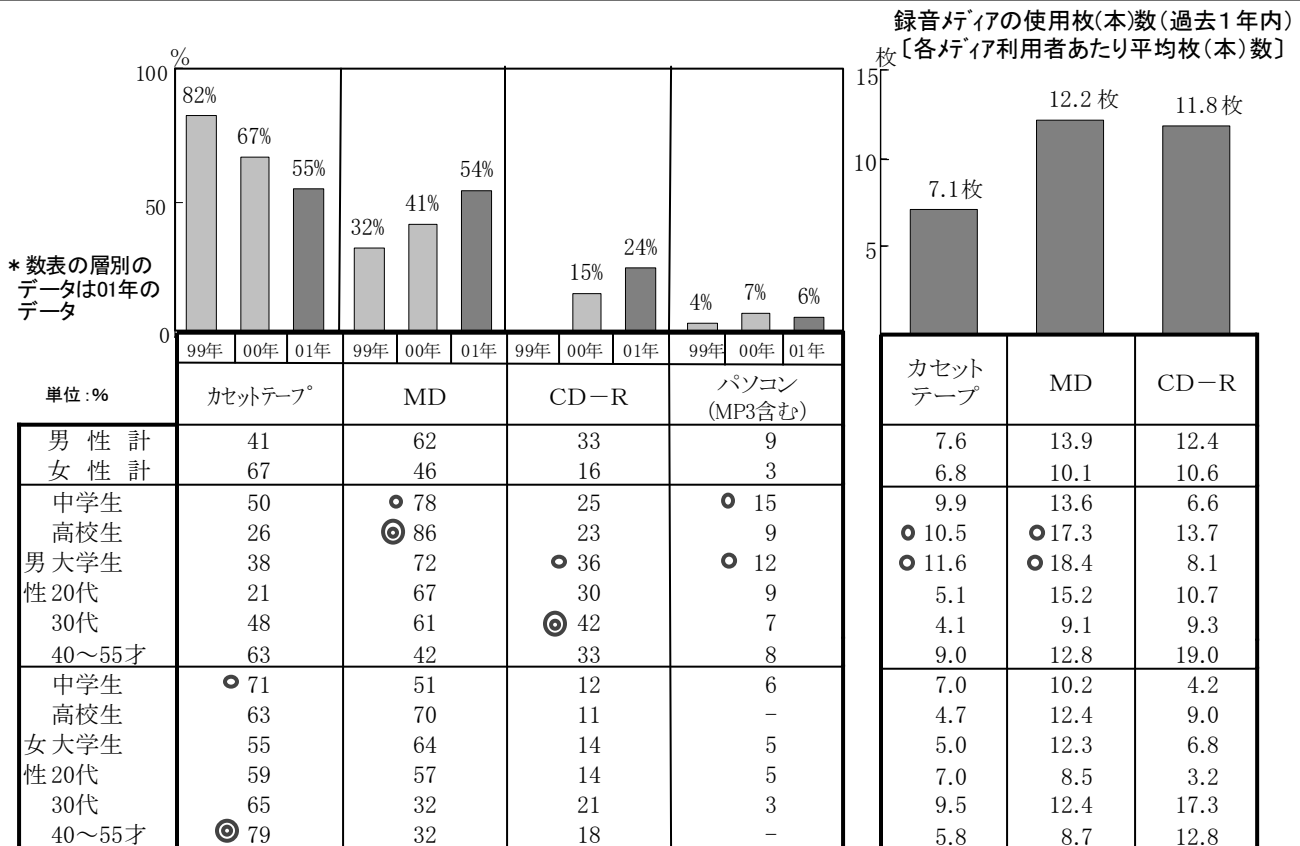
細かくみた場合、邦楽・洋楽を問わず「ロック」は男性で、「ポップス」は女性で優位なようです。

また「R&B」「ラップ・ヒップホップ」も邦洋を問わず男女大学生層がよく購入しているようです(ただし「海外(欧米)のR&B」のみ男性20代が大学生を上回ります)。

4. 録音・録画したもの—— Q. 何から録音・録画しましたか(いくつでも○)。



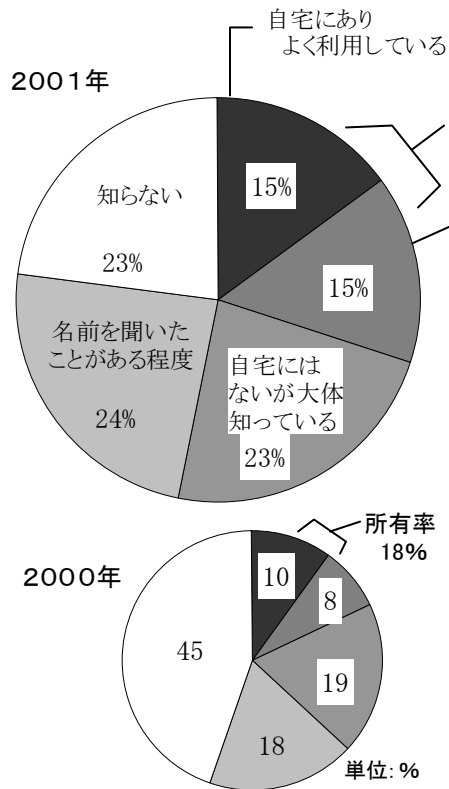
5. 録音先—— Q. 録音は何にしましたか(いくつでも○)。



6. CD-R機器利用状況

(1) CD-R認知率・所有率

—Q. あなたはCD-R(機器)を知っていますか。



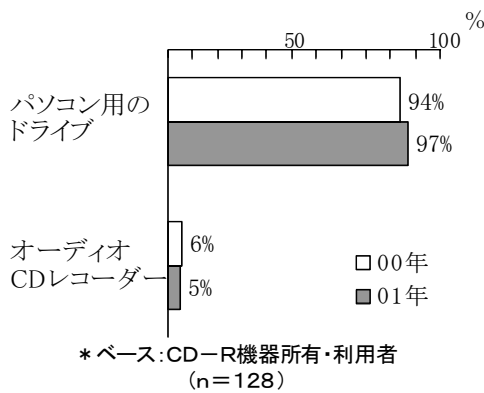
単位: %	自宅にありよく利用している	自宅にあるがあまり利用していない	自宅にないが大体知っている	名前を聞いたことがある程度	知らない
男性計	19	13	33	21	15
女性計	11	16	14	27	32
中学生	13	10	18	31	27
高校生	16	16	21	28	18
大学生	34	12	33	12	9
性 20代	22	10	45	15	8
30代	21	11	29	24	15
40~55才	14	17	30	21	18
中学生	16	10	9	24	40
高校生	5	12	15	25	43
大学生	15	22	25	25	12
性 20代	9	9	25	37	19
30代	15	17	20	27	21
40~55才	11	21	2	21	46

* ベース:全数(n=800)

* ◎○は、性年代間で特に高い傾向を示す数値

(2) 所有CD-R機器のタイプ(複数回答)

—Q. 所有しているCD-R(機器)はどのようなタイプですか(いくつでも○)

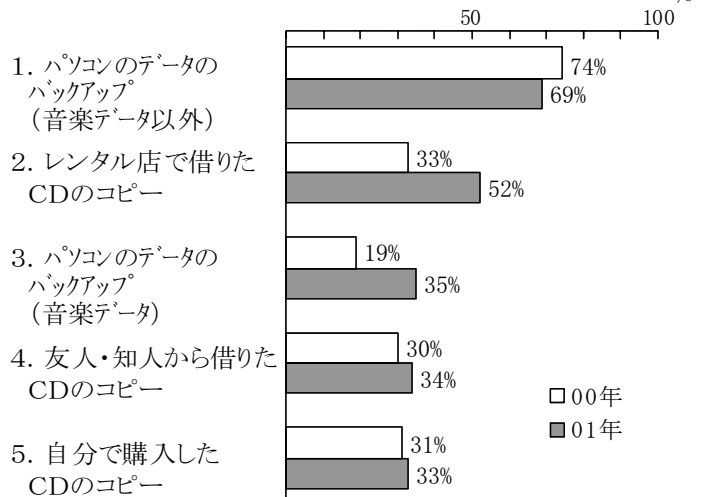


* ベース:CD-R機器所有・利用者(n=128)

(3) CD-R機器の使用用途

—Q. CD-R(機器)は主にどのような用途で使いますか(いくつでも○)

—Q. 音楽をコピーしたCD-R(ディスク)を何枚位持っていますか



〔音楽をコピーしたCD-R(ディスク)の所有枚数平均〕
12.0枚

* ベース:CD-R機器所有者(n=128)
平均枚数の母数はCD-R機器所有者あたり

Information

不法録音物対策委員会 長野県茅野市で著作権講習会

不法録音物対策委員会は、2月16日(土)、長野県茅野市内茅野パークホテルにおいて開催された同市公民館主催の研修会に、著作権講座の講師として参加しました。同委員会からは、(社)日本音楽著作権協会長野支部の平山支部長、当協会特別業務部古村調査室長、特別業務部米内職員の名が参加しました。

この研修会は、最近高まりつつある知的所有権保護の気運に習い、様々な行事を開催する上で必須である著作権への理解を深めていただくことを目的として開催されたものです。当日は、茅野市内84の公民館・集会所の責任者・担当の他、会館の責任者や幹事、世話役等公民館関係の方々など100名近くが参加しました。

研修会では、まず、音楽著作権に関する説明から、委員会の設立経緯と現在までの活動状況の説明が行われました。その後、最近の音楽業界についての説明や著作権入門ビデオ・広報ビデオの上映、各種音楽教室やカラオケ教室における著作権関係の説明などが行われました。

引き続き質疑応答が行われ、参加者から、カラオケ教室や各種音楽教室などが公民館・集会所などで活動する上で陥りやすい点についての質問があり、講師からは、私的複製と目的外使用の差異についての説明が行われました。

また委員会は、公民館などに対し、

著作権思想の普及のために作成している広報リーフレットやポスターなど配布への協力を呼びかけるとともにこの活動へ理解と協力を求め、「不法ダビングを行っている教室、近隣の教室の所在情報を是非、"カラオケ教室110番(フリーダイヤル0120-047181)"までお寄せ下さい」と積極的な情報提供を依頼して、約2時間に及ぶ講習会は成功裡に終了しました。



熱心に研修を受ける参加者

アジア知的所有権 シンポジウム2002開催

著作権と商標権等に関する8団体他で構成する不正商品対策協議会(不正協)は、2月8日(金)、グラウンドアーク半蔵門において「アジア知的所有権シンポジウム 2002」を開催しました。今年で4回目となるこのシンポジウムは、今回は「21世紀、知的財産権は人類の尊い財産～ブロードバンド新時代の知的財産戦略」と題して、基調講演、パネルディスカッションおよびセミナーで構成されました。

冒頭の挨拶で、不正協代表幹事稲葉昭

典氏は「デジタル技術の進歩により、個人レベルで音楽や映像といった知的財産が無断で配信できるようになってきている。不正協は今後、技術的保護手段の強化など、知的財産の保護を訴えたい」と述べました。

第1部は「グローバリゼーション&Anti-Piracy～MPAの知的財産侵害に対する世界戦略」と題して、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA) 上級管理副社長ジェ

イ・スコット・ディンスデイル氏による基調講演が行われ、MPAが取り組んでいるネットワーク上の違法対策について説明がありました。

第2部では、「ネット社会における音楽の違法利用とその対策」と題してパネルディスカッション

が行われました。パネリストとして参加したカシオペア・キーボード奏者(作曲家)の向谷実氏は、自らが作曲した楽曲がインターネットを利用して無料で交換・ダウンロードされることへの危機感を、作曲家の立場から参加者に訴えかけました。また、当協会の田中純一テクノロジーセンター長もパネリストとして参加し、権利者の意思に基づいてコピーを制限することが可能な次世代音楽



パネルディスカッションに参加する
当協会 田中センター長

パッケージの必要性について説明を行ないました。

第3部では、「日本における知的財産保護に関する現状と今後の課題」と題して、文化庁著作権課長・岡本薫氏、財務省関税局知的財産権専門官・山田正明氏、特許庁国際課地域政策室長・鶴谷裕二氏および警察庁生活経済対策室・長谷直樹氏から講演が行われ、各省庁の知的財産権保護への取り組みについて説明が行われました。

なお、今回のシンポジウムへの来場者は過去最高の約490名に上り、成功裡に終了しました。

当協会「MIDEM2002」で 特別表彰

世界最大の音楽見本市であるMIDEMが、今年も「MIDEM2002」として、1月20日から23日の4日間、



パネルディスカッション



右より ザビエル・ロイ REED MIDEM会長、石坂副会長、依田副会長

フランス・カンヌにおいて開催されました。

当協会は、1991年から、(社)音楽出版社協会(MPA)が設置する「JAPANスタンド」に協力していますが、今年は当協会60周年記念事業の一環として、海外の関係者に日本のレコード産業を紹介するために参加しました。

会期初日の20日、当協会は、MIDEM主催者であるリードMIDEMのザビエル・ロイ代表から、特別表彰を受けました。

これは、日本の音楽市場が世界でも重要な役割を果たし経済的に大きく貢献している点や海賊版が非常に少ないことを高く評価すると共に、当協会の60周年を祝い今後の発展を祈念するもので、同代表によってメッセージが読み上げられ、石坂副会長に記念のトロフィーが授与されました。

その後、リードMIDEM、MPAと共に「How To Succeed In Japan—Japanese Music Industries of 2002」と題したジャパン・セミナーを共催しました。セミナーの冒頭では日本の音楽マーケットを紹介するビデオを上映し、引き続き、パネルディスカッションに移りました。

パネルディスカッションではアレキサンダー・アブラモフ氏がモデレーターを務め、当協会石坂、依田両副会長、MPA朝妻副会長と、ゾンバ・レコーズ・ジャパンのジョン・ポスマン取締役がパネリ

ストとして参加しました。会場には予定人数をはるかに上回る200人以上の聴講者が訪れ、日本の音楽市場への関心の高さを実感できました。各パネリストからは、日本の音楽シーンや日本市場での成功の秘訣等について活発な発言があり、イベントは大盛況裡に終了しました。

セミナー会場、JAPANスタンド等では、当協会会員社の紹介と日本市場に関する情報を掲載したパンフレットを配布しましたが、非常に好評で、当初の目的のひとつであった海外広報として大きな成果を挙げることができました。

日韓国民交流年記念 「アジアミュージック フェスティバル02」開催

(財)音楽産業・文化振興財団が主催する「アジアミュージックフェスティバル02」が、2月13日(水)、東京お台場の「Zepp Tokyo」で開催されました。



今年のフェスティバルには、昨年10月に同財団と韓国・音楽産業振興財団の共同制作によって発売されたアルバム「PROJECT 2002/The Monster」に参加している3組のアーティストが出演した他、特別参加として日本から「HOUND DOG」、韓国から「Wax」が加わり、計5組の日韓ビッグアーティストの華やかな共演となりました。

フェスティバルは3時間にもわたり、すべてのアーティストに会場中から熱い声援が送られ、ステージと

観客が一体となって素晴らしいコンサートが展開されました。

この事業は(社)私的録音補償金管理協会の助成を受けて実施されました。

なお、出演アーティストは以下のとおりです。

HOUND DOG (日本)

DEEN (日本)

Wax (韓国)

POSITION (韓国)

Jaurim (韓国)



熱気につつまれた会場

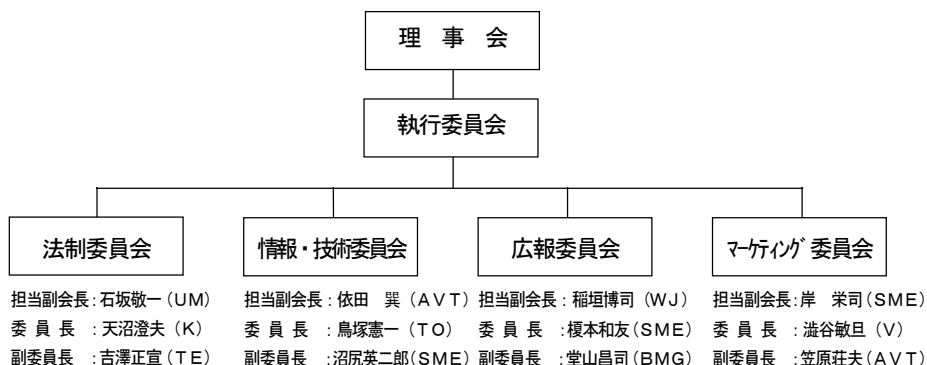
当協会新組織体制について

当協会では、今年4月に創立60周年を迎えるにあたり、昨年「RIA J21プロジェクト」をスタートしました。

プロジェクトでは全面的な事業の見直しを行い、従来の委員会、部会等の

協会運営体制を廃止、新たに執行委員会と法制、情報・技術、広報、マーケティングの4つの委員会による審議制度を導入、事業を推進していくこととしました。

すでに、今年1月1日から新体制で業務を行っておりますが、1月25日開催の理事会において、各委員会の正副委員長が以下のように正式に決定しました。



担当副会長：石坂敬一 (UM)
委員長：天沼澄夫 (K)
副委員長：吉澤正宣 (TE)

担当副会長：依田 巽 (AVT)
委員長：鳥塚憲一 (TO)
副委員長：沼尻英二郎 (SME)

担当副会長：稲垣博司 (WJ)
委員長：榎本和友 (SME)
副委員長：堂山昌司 (BMG)

担当副会長：岸 栄司 (SME)
委員長：澁谷敏旦 (V)
副委員長：笠原荘夫 (AVT)

WIPO 著作権条約発効

デジタル時代に対応するWIPOの著作権等を保護する2つの条約のうち、WIPO著作権条約(WCT)が3月6日に発効しました。もうひとつの条約であるWIPO実演・レコード条約(WPPT)は、2月20日に批准が30カ国となり、同条約条文での規定により、3カ月後の5月20日に発効することになります。

今回の発効については、先月(2月号)の「世界の話」でも取り上げていますのでご参照ください。

日本レコード普及人事異動

日本レコード普及(株)は、2月14日に臨時総会を開催し、下記の人事を承認しました。

記

- 新任：取締役会長
齊藤正明 (東芝EMI(株)代表取締役社長)
- 退任：取締役会長
後藤 豊 (株フォーライフミュージックエンタテイメント代表取締役社長)

当協会理事交替

当協会理事の交替がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

- 新任：松村 克己 (日本コロムビア(株)代表取締役社長)
- 退任：ストラウス・ゼルニック (同代表取締役会長)

GOLD ALBUM 他認定作品

2002年11月度

アルバム

(17 作品)

邦 楽

■3ミリオン

I am... / 浜崎あゆみ / 2002.01.01 (AVT)

■クワドラプル・プラチナ

ラヴ・ノーツ / ゴスペラース / 2001.06.06 (KS)

■ダブル・プラチナ

LOVE PSYCHEDELIC ORCHESTRA /
LOVE PSYCHEDELICO / 2002.01.09 (V)

■プラチナ

MEET THE BLUE HEARTS
～ベストコレクション IN USA～
/ THE BLUE HEARTS / 1995.01.01 (TRI)
THE BLUE HEARTS SUPER BEST /
THE BLUE HEARTS / 1995.10.16 (TRI)
w-incs. ～ 1st message / w-incs. / 2001.12.19 (PC)
huma-rhythm / hitomi / 2002.01.30 (AVT)

■ゴールド

ファーストKISS / 松浦亜弥 / 2002.01.01 (EP)
SMOOTH / VARIOUS / 2002.01.09 (MH)
GRAVITY / SNAIL RAMP / 2002.01.16 (K)
VARIOUS ARTISTS FEATURING songnation /
V.A. / 2002.01.23 (AVT)

洋 楽

■プラチナ

MAX7 / VARIOUS / 2001.12.05 (SI)
ニュー・イヤーズ・コンサート2002 / 小澤征爾
& ウィーン・フィル / 2002.01.19 (UM)

■ゴールド

グレイテスト・ヒッツ / アース・ウインド &
ファイアー / 1999.11.03 (SI)
サイモン & ガーファンクルのすべて /
サイモン & ガーファンクル / 1999.11.26 (SI)
オリジナルサウンドトラック「ハリー・ポッターと賢者の石」 / ジョン・ウィリアムズ /
2001.11.28 (WJ)
MOVIE HITS / マドンナ、ジャミロクワイ、
U2、アバ他多数アーティスト / 2002.01.23 (WJ)

シングル

(9 作品)

邦 楽

■ミリオン

traveling / 宇多田ヒカル / 2001.11.28 (TO)

■ダブルプラチナ

YOUTHFUL DAYS / Mr.Children / 2001.11.07 (TF)

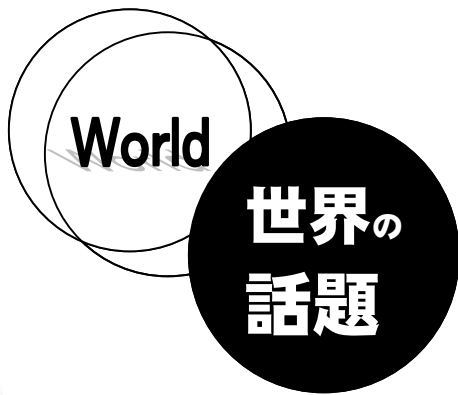
■プラチナ

君が好き / Mr.Children / 2002.01.01 (TF)
Life goes on... / Dragon Ash / 2002.01.23 (V)
果てなく続くストーリー / Misa / 2002.01.30 (AVT)

■ゴールド

SAMURAI DRIVE / hitomi / 2002.01.09 (AVT)
Winter Bells / 倉木麻衣 / 2002.01.17 (GZ)
Missin' you～It will break my heart～ /
平井 堅 / 2002.01.30 (DF)
ミニモニ。ひなまつり7 / ミニ。ストロベリ
～パイ / ミニモニ。 / 2002.01.30 (EP)

※AI: ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ / AR: アンティノスレコード / AVT: エイベックス / BG: ビーグラムレコーズ / BM: ルームスレコーズ / BMG: BMG ファンハウス / C: 日本コロムビア / CR: 日本クラウン / CT: カッティング・エッジ / DF: デフスターレコーズ / EI: エピックレコーズ・インターナショナル / EP: セティマ / ES: ソニー・ミュージック EK/Epic Records / EW: イーストウエスト・ジャパン / FL: フォーライフミュージックエンタテイメント / GZ: ギザ / JE: ジャニーズ・エンタテイメント / JF: J-FRIENDS P. / K: キングレコード / KS: ソニー・ミュージック EK/Ki/oon Records / MH: ソニー・ミュージックハウス / PAR: プライエイド・レコーズ / PC: ポニーキャニオン / PG: ポリグラム / PI: バイオニアLDC / PO: ポリドール / PS: ポリスター / PZ: ピザ・オブ・デス・レコーズ / RR: ロードランナー・ジャパン / SI: ソニーレコーズ・インターナショナル / SN: SENHA & CO. / SR: ソニー・ミュージックレコーズ / TE: テイチクエンタテインメント / TF: トイズ・ファクトリー / TJC: 徳間ジャパンコミュニケーションズ / TO: 東芝EMI / TRI: トライエム / UM: ユニバーサルミュージック / V: ビクターエンタテインメント / VAP: バップ / WJ: ワーナーミュージック・ジャパン / ZA: ツァインレコーズ / ZJ: ソンバ・レコーズ・ジャパン



イギリス音楽産業好調、4年連続出荷量増加

不況の影響で、音楽売上は世界的に減少傾向にあります。イギリスは、国内盤の強力なリリーススケジュールに支えられ例外的に好調を維持、小売店への出荷数量も4年連続で増加しています。

イギリスレコード協会（BPI）の統計によると、2001年の同国の出荷金額は、前年対比で5.3%増加し、12億3,000万ポンド（17億5,000万ドル）とこれまでの最高を記録しました。

アルバムの出荷は、セールス上位7アルバム（すべて国内アーティスト）の好調を受け、数量で4.4%増加しました。ディドの「ノー・エンジェル」は、国内だけで200万枚以上と最高の売り上げを示しました。これら好調な作品の影響もあり、アルバム市場は、金額でも7%増加し、11億2,000万ポンド（15億9,000万ドル）を記録しました。

第4四半期の総出荷量は5.2%増で、年間収入の41.1%を記録しました。国内レパートリーの好調ぶりについて特筆すべき事実としては、セールス上位10アルバムのうち、6タイトルがこの10月～12月の第4四半期に発売されたもので、2タイトルが同国のレーベルと契約しているアーティストの作品、1タイトルが国内で独自に企画されたコンピレーションアルバムであることがあげられます。かろうじてマドンナがトップ10入りし、上位10アルバムがイギリス勢に独占されるのを阻止しました。

2001年のアルバム関連ではベスト物の好調が目立ち、上位100アルバムの売上の23.5%を占めました。2000年にも2001年とほぼ同数のベストアルバムが発売されましたが、2001年は対前年比で17.9%も売上が増加しました。

シングルの売上は、1993年以来の6,000万枚以下となったものの、ジャギーの「It Wasn't Me」と、デビュー・シングルとしては最速となったHear'Sayの「Pure and Simple」の2作品がミリオンを記録し

ました。シングル需要が衰えてきてるとはいえ、イギリス市場は、ヨーロッパ全体の3分の1を占めるシングル売上を記録しています。

ミニディスクとカセットは、出荷数量でそれぞれ75.9%、59.5%と大幅な減少が続いています。

(2002/2/23 ビルボード)

イタリア音楽売上落ち込む

イタリアの音楽産業団体であるFIMIの統計によると、2001年のイタリアの年間レコード売上は、数量で9%、金額で7.9%減少しました。

2001年の売上は、数量で前年の4,818万5,000枚から4,384万9,000枚に、金額では3億6,780万ユーロ（3億2,200万ドル）から3億3,387万ユーロ（2億9,700万ドル）へとそれぞれ減少しています。

CDアルバムの売上は、数量で2.9%、金額で3.1%の減少を記録しました。CDシングルは、数量で0.7%減ですが、金額では1.4%の微増となっています。カセットは、数量で35.5%、金額で43.6%の減少を記録しました。

明るい話題としては、国内レパートリーの市場占有率が、2000年の38.8%から43.6%へと拡大したことが挙げられます。海外レパートリーの市場は4.7%縮小し、52.6%となっており、残りの市場は、同国では単独ジャンルとして扱われているクラシックが占めています。

FIMIのAlberto Pojaghi会長は声明の中で「2001年上半期に始まり、9月11日のテロ事件で更に悪化した低迷状態が反映された数字である。クリスマスシーズンでの盛り返しを期待していたが、更に落ち込んだだけだった。しかし、国内レパートリーの市場拡大は非常に明るいニュースである」とし、更に「ここ最近盛り返してきた出版産業や文化産業などに続いて、イタリアの音楽産業が同様の利益にあずかることが重要なことだ」と続けました。

V2レコード・イタリアのAlessandro Massara代表はビルボード誌の取材に対し、Pojaghi会長と同様に低迷を指摘したほか、「クリスマス・シーズンに落ち込まなかったのは海賊業者だけではないか。この売上減の影響はすでにメジャー、独立系両方のレコード会社に及んでおりリストラが始まっている。まず、業界全体が真剣に不況と取り組む必要があるだろう」、国内レパートリー市場の拡大については、「よいニュースだが、フランスのように、もっと国内盤シェアを拡大していくべきだ」と語りました。

(2002/2/23 ビルボード)

2002年2月会議メモ（主なもの）

(2月1日～2月28日)	2・8	日本GD大賞審査会	2・19	著作権使用料会議
2・7 法制委員会	2・12	広報委員会		日本音楽家ユニオン交渉会議
共通目的事業検討会議	2・13	情報・技術委員会	2・21	3団体連絡協議会
2・8 レコード制作基準倫理委員会		日本GD大賞審査会	2・22	理事会
日本GD大賞RIAJ・NHK合同会議	2・14	マーケティング委員会	2・27	Techno-Legal Forum
ユーザー調査報告会	2・15	日本GD大賞実務担当者会議		
		執行委員会		

オーディオレコード新譜数の推移

本号は1年間に発表されるオーディオレコードの新譜数の推移を図と表により紹介します。

図 種類別オーディオレコード新譜数の推移

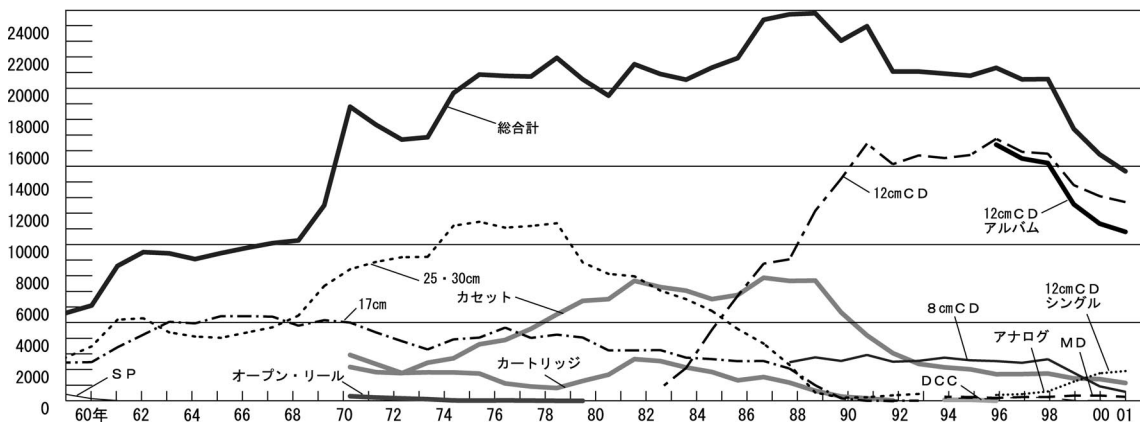


表 種類別オーディオレコード新譜数の推移

単位：枚(巻)

西暦	SP	アナログディスク		8cmCD	12cmCD	カセット	カートリッジ	オープン・リール	合計
		17cm	25・30cm						
1959	964	2,074	2,202						5,240
1960	414	2,433	2,769						5,616
1961	139	2,475	3,483						6,097
1962	15	3,425	5,187						8,627
1963		4,231	5,281						9,512
1964		5,053	4,379						9,432
1965		4,954	4,111						9,065
1966		5,414	4,030						9,444
1967		5,416	4,366						9,782
1968		5,382	4,704						10,086
1969		4,807	5,451						10,258
1970		5,159	7,346						12,505
1971		5,006	8,415			2,162	2,933	295	18,811
1972		4,378	8,884			1,834	2,353	211	17,660
1973		3,818	9,186			1,767	1,781	157	16,709
1974		3,286	9,210			2,437	1,821	106	16,860
1975		3,930	11,198			2,720	1,816	23	19,687
1976		4,042	11,452			3,614	1,746	15	20,869
1977		4,681	11,075			3,891	1,110	26	20,783
1978		4,021	11,185			4,607	915	15	20,743
1979		4,233	11,358			5,526	818	3	21,938
1980		4,049	8,851			6,393	1,270	1	20,564
1981		3,224	8,119			6,504	1,672		19,519
1982		3,224	7,965			7,674	2,667		21,530
1983		3,246	7,052		788	7,277	2,543		20,906
1984		2,761	6,503		2,097	7,047	2,133		20,541
1985		2,668	5,750		4,546	6,504	1,845		21,313
1986		2,535	4,593		6,719	6,768	1,310		21,925
1987		2,547	3,661		8,772	7,872	1,520		24,372
1988		2,066	2,299	2,468	9,053	7,671	1,164		24,721
1989		993	528	2,780	12,155	7,691	642		24,789
1990		155	198	2,549	14,203	5,655	276		23,036
1991		0	229	2,933	16,451	4,188	160		23,961
1992		4	350	2,502	15,135	3,049	24		21,064
1993	MD	9	439	2,556	15,697	2,362		DCC	21,063
1994	177	258		2,761	15,527	2,142		65	20,930
1995	159	245		2,592	15,722	2,015		64	20,797
					シングル	アルバム			
1996	117	183		2,540	371	16,385	1,702	2	21,300
1997	252	242		2,431	428	15,497	1,710		20,560
1998	119	248		2,659	599	15,208	1,746		20,579
1999	33	396		1,795	1,225	12,573	1,436		17,458
2000	17	338		929	1,760	11,333	1,388		15,765
2001	1	253		575	1,904	10,808	1,141		14,682

2002年1月レコード生産実績

社団法人 日本レコード協会

数量：千枚・巻

単位

金額：百万円

表1. オーディオレコード

	1月実績							2002年(1月~1月)累計						
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比		
シングル	8cm CD	邦	857	4	139	461	2	168	857	4	139	461	2	168
		洋	4	0	604	3	0	693	4	0	604	3	0	693
		計	861	4	139	464	2	169	861	4	139	464	2	169
	12cm CD	邦	5,894	26	79	4,528	17	78	5,894	26	79	4,528	17	78
		洋	57	0	65	58	0	78	57	0	65	58	0	78
		計	5,951	26	78	4,586	17	78	5,951	26	78	4,586	17	78
	小計	邦	6,751	29	83	4,989	18	82	6,751	29	83	4,989	18	82
		洋	61	0	70	60	0	81	61	0	70	60	0	81
		計	6,812	30	83	5,050	19	82	6,812	30	83	5,050	19	82
12cmCD アルバム	邦	9,896	43	82	14,307	53	67	9,896	43	82	14,307	53	67	
	洋	5,149	22	110	6,990	26	104	5,149	22	110	6,990	26	104	
	計	15,044	66	90	21,297	78	76	15,044	66	90	21,297	78	76	
CD 合計	邦	16,646	73	82	19,297	71	71	16,646	73	82	19,297	71	71	
	洋	5,210	23	109	7,050	26	104	5,210	23	109	7,050	26	104	
	計	21,857	95	87	26,347	97	77	21,857	95	87	26,347	97	77	
アナログ ディスク	邦	18	0	16	22	0	18	18	0	16	22	0	18	
	洋	2	0	22	2	0	15	2	0	22	2	0	15	
	計	21	0	17	24	0	18	21	0	17	24	0	18	
カセット テープ	邦	1,045	5	87	814	3	94	1,045	5	87	814	3	94	
	洋	1	0	21	1	0	22	1	0	21	1	0	22	
	計	1,045	5	87	815	3	94	1,045	5	87	815	3	94	
総合計	邦	17,709	77	82	20,133	74	71	17,709	77	82	20,133	74	71	
	洋	5,213	23	109	7,053	26	104	5,213	23	109	7,053	26	104	
	計	22,923	100	87	27,185	100	77	22,923	100	87	27,185	100	77	

表2. ビデオレコード

	1月実績						2002年(1月~1月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	2,324	72	123	4,366	54	116	2,324	72	123	4,366	54	116
LD・その他	156	5	81	252	3	80	156	5	81	252	3	80
テープ	758	23	77	3,419	43	68	758	23	77	3,419	43	68
合計	3,237	100	105	8,037	100	89	3,237	100	105	8,037	100	89

表3. オーディオ/ビデオ合計

	1月実績						2002年(1月~1月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ	22,923	88	87	27,185	77	77	22,923	88	87	27,185	77	77
ビデオ	3,237	12	105	8,037	23	89	3,237	12	105	8,037	23	89
合計	26,160	100	89	35,222	100	80	26,160	100	89	35,222	100	80

<参考>表4. 複合型CD (CD-G、CD-I、CD-ROMなど)

	1月実績						2002年(1月~1月)累計					
	数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
邦盤	10,989	100	112	1,147	100	95	10,989	100	112	1,147	100	95
洋盤	0	0	-	0	0	-	0	0	-	0	0	-
合計	10,989	100	112	1,147	100	95	10,989	100	112	1,147	100	95

備考 1. 本年実績は、会員会社「24社」の集計である。当会員会社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。